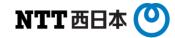
# 【別紙1】クラスB通信 概要



従来はLoRaWAN™の通信方式として、端末・センサー等からサーバーへのアップリンク(クラスA通信)が一般的であったが、この度、 **日本で初めて\*\*ネットワークおよび端末におけるクラスB通信の実現性を確認**できた。これにより、端末からサーバーへのアップリンクだけではなく、サーバーから端末へのダウンリンクによる通信が可能となり、ユーザーニーズに応じた更なる利便性向上が期待できる。 ※クラスB通信の実現は日本においてはNTT西日本が初。

### ■LoRaWAN™通信方式

	通信	電力	用途
(従来) クラスA	アップリンク※1	電池駆動 (電力消費 <u>低</u> )	データ収集中心(センサー情報・ステータス・機器ログ・エラーコード 等)
日本初 クラスB	ダウンリンク※2		遠隔制御(センタからの指示・開閉栓・ON/OFF 等)
クラスC	アップリンク・ ダウンリンク	電源駆動 (電力消費 高)	クラスA・Bと同等

※1:アップリンク・・・端末からサーバーへの通信

※2:ダウンリンク・・・サーバーから端末への通信

#### ■利用シーン(災害時の対応)

### 従来

#### <現状>

- ・災害時はどの端末が閉栓・ 故障しているかのステータスが 不明。
- ・ステータスが分からないため、 全ての端末の状態を現場に 訪問し確認が必要。

<ガス会社様のご要望> 地震等災害時に各メーターの 開閉状態を確認したい。 (端末は省電力で動作要)

## . \

## く実現できる利用シーン>

- ・サーバーから端末へ、災害後にステータス報告を指示し、ステータスの報告をサーバーに収集。
- ・ステータスを把握することで、 迅速で効果的な災害復旧が 可能となり、ガス漏れによる2 次被害拡大を防止。

## 日本初 NTT西対応



